

■「鐘の鳴る街会津」事業～今後の展望～

● 撞き手の募集と確保。

これまでの反省点で、『鐘を撞きたいと思ったが、どこのお寺に行けばよいかわからない。』『寺の名前だけでは場所がわからない。』などの問い合わせがありました。

今後この点に関して、パンフレット・広報誌・ホームページなどへの掲載をお願いするとともに、独自のチラシやのぼり旗などを含め、告知方法を充実し、訪れた観光客にも気軽に鐘撞きを体験してもらえるように整備していきたい考えます。



● 鐘撞きを17市町村へ拡大。

湯川村の勝常時や磐梯町の恵日寺など、会津の古刹・歴史遺産は広域に点在することから、鐘撞き事業も会津若松市以外に広げていくことが考えられます。会津柳津町では福満虚空蔵尊圓蔵寺と奥之院の鐘の音が「うつくしまの音30景」の一つに選定されていることから、こうした動きとも連動し、会津全域で鐘の鳴る街を推進・PRしていきたいと考えます。

◆「うつくしまの音30景」とは…

福島県の事業で、日常生活に潤いと安らぎを与えてくれる心地よい音を、将来に残していくとともに、その音に関心をもつこと等を目的としています。



● 聴覚＋語感(触覚・味覚・視覚・嗅覚)の組合わせが可能なスポットの選定。 『鐘の音を聞くならココ』としてPRする。

例：満開の桜の下で地酒を酌み交わしながら聞く鐘の音。

例：蛙の鳴く田園の向こうに沈む夕日を眺めながら聞く鐘の音。

例：露天風呂に浸かりながら聞く鐘の音。

美しい紅葉と土蔵に柿の実…会津の名物を食べながら…等、

その季節、その時間の空の色や街の風景、漂う香りなどによってそれぞれに趣が感じられ、鐘の音に加わることでさらに仏都会津の郷愁と情緒を体感してもらえるような場所とシチュエーションを掘り起していくものです。

